



東日本大震災に関わる支援活動の概要【概略版】

2012年4月1日

NPO法人うつくしまNPOネットワーク
事務局

1. 組織の概要

当会は、福島県全域で活動する中間支援組織（インターメディアリー）として、次の事業を実施しています。

- (1) 【2012年度重点事業】東日本大震災と東電原発事故に係わる支援活動
- (2) 地域活動団体（注-1）の設立・運営・経営などの相談
- (3) 公益信託うつくしま基金の申請と活用の支援
- (4) 一般社団法人ふくしまNPOバンク（FNB）の事務局など各種事務局（注-2）
- (5) 「新しい公共支援事業」に係わる事業
- (6) 上記に係わる調査・研究・提言・アドボカシー活動

注-1：地域活動団体とは、地縁組織、NPO法人、ボランティア団体、公益法人等の民間非営利組織を包含します。「NPO等」も呼びます。

注-2：福島県UD推進協議会、福島県ソーシャルビジネス推進協議会（F-SB）、ふくしま子育て支援ネットワーク（F-CS）、福島県環境・エネルギーNPO連絡協議会、ふくしま被災者支援ネットワーク（絆ネット）、大熊町避難者支援連絡調整会議、浪江町被災者支援ネットワーク会議などの事務局を努めています。

2. 「3.11」についての基本的な考え方

「3.11」は、自然災害と人災による複合災害です。地域のあり方やエネルギーのことなど、明治以降の近代日本の社会を根本から問う出来事です。

そして、福島県では1年以上たつのにまだ、地震・津波・原発・風評・風化・消費の六重苦が続く、現在進行形の災害です。

「3.11」を咀嚼・消化することで、未来の日本の基礎を創出することができます。福島（”フクシマ” ”FUKUSHIMA”）は、被害者でも、加害者でもなく、時代を切り開くべく苦悩する者です。

3. 支援活動の概要

(1) スローガン

- 「ともに生きよう、みんなで支えあう新しい日本の創造を目指して！」

- 「NPO 活動の制約を突き抜け、NPO 活動の新しい地平を切り開こう！」
- 支援する・支援される関係の向こう側に、新しい「輪」を創りだそう！！

(2) 絆ロゴマークの制作



当会の東日本大震災に係わる支援活動のすべての分野、事業、活動でを使用することを目的に、「絆ロゴマーク」を作成しました。デザインの基本は、赤で桜の花びらをあしらひ、福島県の地図を緑で表現しました。

「うつくしま」とは、「自然と生活の姿が美しいふくしま」を表現した、「ふくしまに掛かる枕詞。です。

(3) 独自事業

- ① ふくしま被災者支援ネットワーク（絆ネット）、大熊町避難者支援連絡調整会議、浪江町被災者支援ネットワーク会議などの組織化と事務局
- ② ふくしま絆カフェ（富岡、仮設 de 仮設カフェ、ボランティア活動）の運営
- ③ 東日本大震災支援全国ネットワーク（JCN）との連携・共催事業
- ④ 救援物資調達配送基地「新・郡山基地」の運営
- ⑤ 風評被害対策講座、支援の質を高めるための講座などの開講
- ⑥ 兵庫 ⇄ 福島ブリッジプロジェクトの企画・開催
- ⑦ 保養（1-15 週）・避難（3-12 月）・疎開（1-3 年）・移住（3 年-）プロジェクトの企画、展開、フォロー
- ⑧ 被災事業所の再開・再建支援

(4) 委託事業

- ① ふるさと絆情報ステーション（13 か所）の開設と運営
- ② 再生可能エネルギーワークショップ（県エネルギー課）

(5) 特別事業

- ① 福島県内で支援活動を展開する NPO・ボランティア団体の支援
- ② ふくしま復興支援中間支援 NPO 連携会議（Tango）の開催
- ③ 日本 NPO 学会と連携した復興フォーラムの開催
- ④ 三井物産株式会社環境・社会貢献部三井物産環境基金事務局などと連携した助成金制度の説明会の開催など

4. 課題

課題は、組織・財政基盤の強化と人的ネットワークの高度化です。